

# 篠山市立篠山小学校

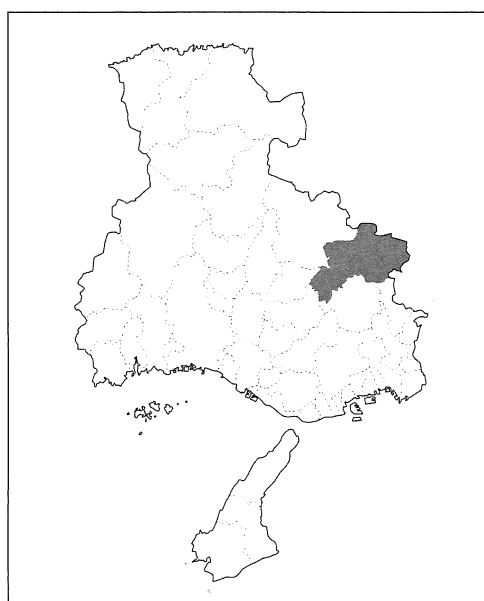
## 木造校舎及び屋内運動場耐震補強改修工事



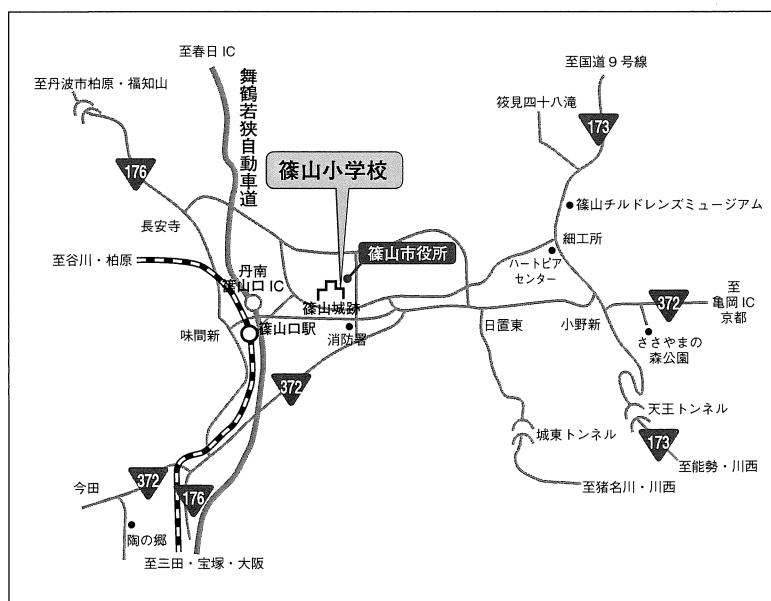
兵庫県篠山市

# 篠山の教育史・学校建築の歴史を引き継ぐ 大規模木造校舎等の耐震改修

篠山市立篠山小学校は 1935（昭和 10）年建築の鉄骨造の講堂と 1951（昭和 26）～ 55（昭和 30）年建築の木造校舎 5 棟からなる。兵庫県教育委員会学事課の助言を受けながら神戸芸術大学の花田佳明先生、東京大学の腰原幹雄先生にアドバイザーとして参画を頂き、「篠山小学校校舎検討委員会」の主導の元 方針決定し平成 25 年度より耐震補強改修工事に着手いたしました。



兵庫県における篠山市の位置



篠山小学校学校位置図

# 1. 篠山市立篠山小学校木造校舎及び屋内運動場耐震補強改修工事

現在の篠山小学校は、明治43年に竣工して以来増改築を繰り返してきたそれまでの校舎を、戦後になって順次解体し建設したものである。



篠山城跡からの全景。右から5号棟、4号棟、3号棟、2号棟、1号棟。3号棟の後ろに見えるのが講堂。

最初に新しくなったのは、現在の1号棟の東半分の部分である。東館と呼ばれていた校舎（2階建て4教室）が1950年3月14日に焼失し、それが1951年7月11日に再建された。

その後、1952年度から4カ年計画で全校舎の改築がおこなわれることになり、1952年12月20日に第1期工事として現在の5号棟が、1953年11月3日に第2期工事として現在の4号棟が、1954年11月3日に第3期工事として現在の2号棟と3号棟が竣工した。そして1955年8月3日に第4期工事として、1951年に再建された校舎の西側に増築がおこなわれて現在の1号棟が竣工し、同年9月11日に全校舎完成祝賀大会が開かれた。さらに1963年8月8日には敷地南端にプールが竣工し、現在の校舎群の構成が完成した。

設計者については、篠山小学校の資料室に保存されている上棟を祝った木製銘板に「設計監理 清水和彌」とある。また、同校に残る沿革を記した書類には、「設計 山下建築（大阪）清水和弥技師」とある。「山下建築（大阪）」とは山下寿郎建築事務所の大阪支所であり、清水和彌は当時その所長であった人物だと思われる。

また、2・3号棟東側には1935年に竣工した講堂があり、鉄骨と木造を組み合わせた構造で状態も良く、現在も使われている。正面上部には、完成時期を皇紀で示した「2594」（＝西暦1934年。竣工の1年前）という数字のサインが取り付けられ、外観には戦前期特有の象徴的意匠も見られるなど、建築史的に貴重な建物といえる。2005年度に兵庫県がおこなった「兵庫県の近代化遺産」調査においてもリストアップされている。



講堂正面。「2594」という文字が取り付けられている。

篠山小学校は、これら5棟の戦後の建築と1棟の戦前の建築によって構成されている。

## ●全体配置

敷地は篠山城跡の中にあり、濠を挟んで城の石垣と対峙している。

5棟はほぼ東西軸に平行に並び、それらの中央と西側（篠山城跡側）にある平屋の渡り廊下が各棟を結んでいる。また各棟の間には動物舎、温室、池、畑などが配された中庭がある。正門は敷地の北側にあり、1号棟中央部に玄関がある。

これだけ多くの戦後の木造校舎が建ち並ぶ姿は壮観であり、建築史的にも貴重な建物といえる。また、校舎と城跡とが一体になって作り出す景観はきわめて特徴的であり、篠山の歴史的・文化的背景を反映しているという意味で、たいへんに意義深いものだといえることができる。



篠山城跡の濠から篠山小学校を望む。



## 【所在地】

兵庫県篠山市北新町5

## 【施設の概要】

棟別

名称	木造校舎								屋内運動場
棟番号	①-1棟	①-2棟	②棟	③棟	④-1棟	④-2棟	⑤-1棟	⑤-2棟	⑪棟
延べ面積	510m <sup>2</sup>	616m <sup>2</sup>	591m <sup>2</sup>	655m <sup>2</sup>	604m <sup>2</sup>	434m <sup>2</sup>	584m <sup>2</sup>	436m <sup>2</sup>	551m <sup>2</sup>
建築年	(1951年) 昭和26年	(1955年) 昭和30年	(1955年) 昭和30年	(1954年) 昭和29年	(1953年) 昭和28年		(1952年) 昭和27年		(1935年) 昭和10年

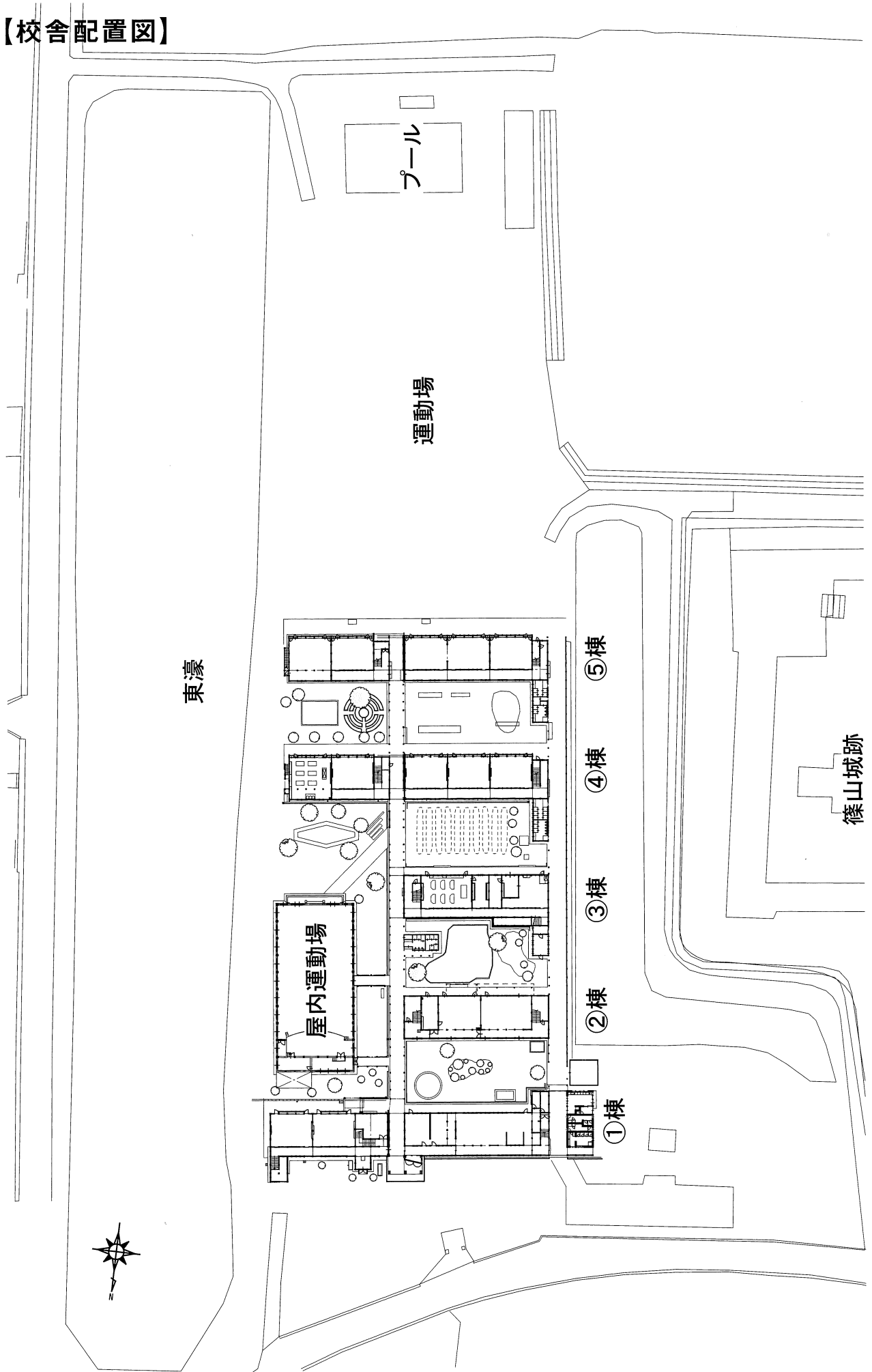
設計者

項目等					
棟名	設計者	工事監督者	工事請負者	棟梁	建設年月
1号館(東棟)	清水和彌	清水和彌	前川組 (代表) 前川一男	角谷興一	昭和26年7月
1号館(西棟)	清水和彌				昭和30年9月
2号館	清水和彌				昭和30年9月
3号館	清水和彌	西脇清治	前川組 (代表) 前川一男	角谷興一 後藤篤蔵 西牧真治郎	昭和29年11月
4号館	清水和彌	西脇清治	播丹土建工業(株) 社長 小谷祐通		昭和28年11月
5号館	清水和彌		丹陽組		昭和27年11月

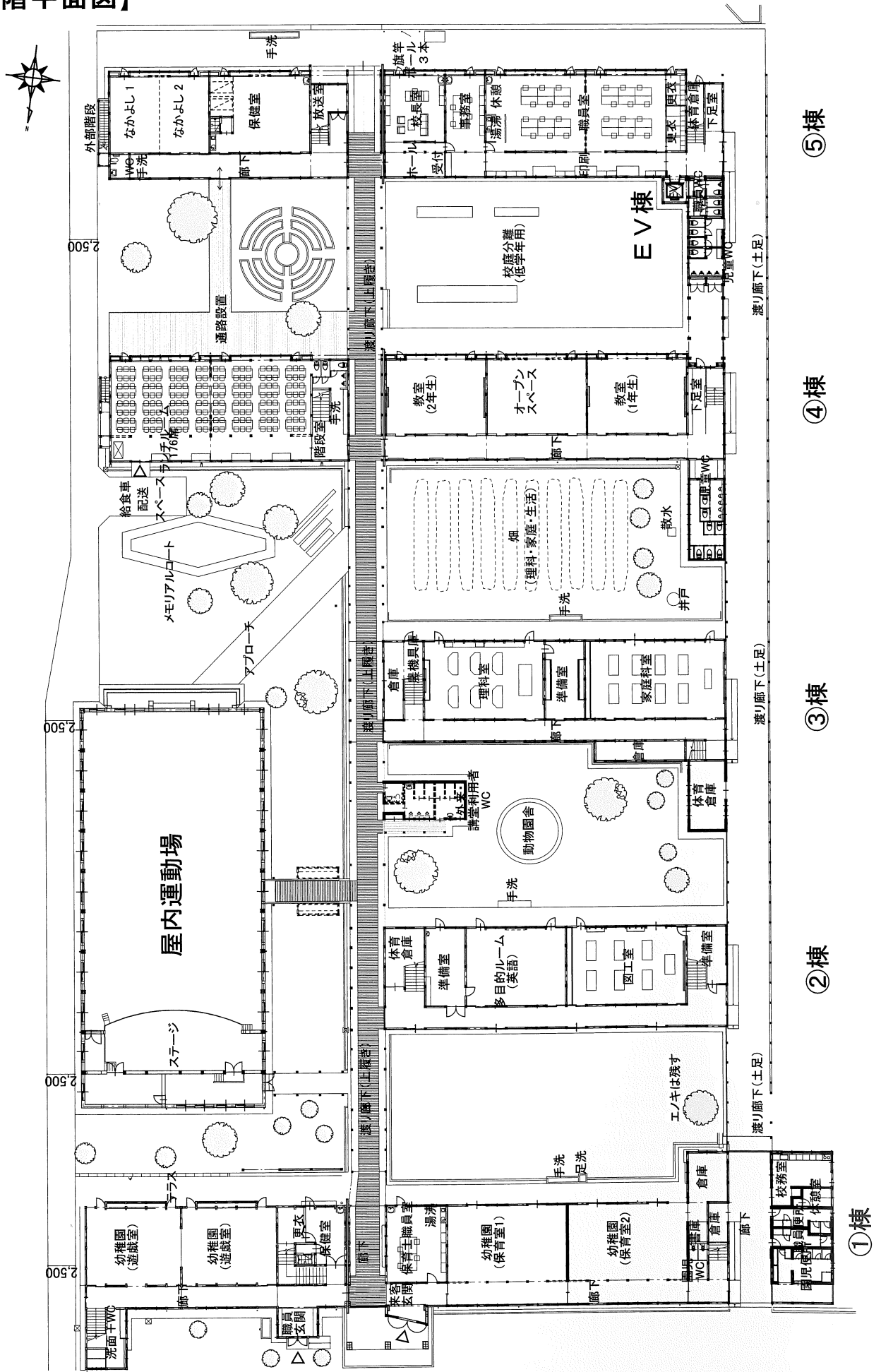
所有者

篠山市

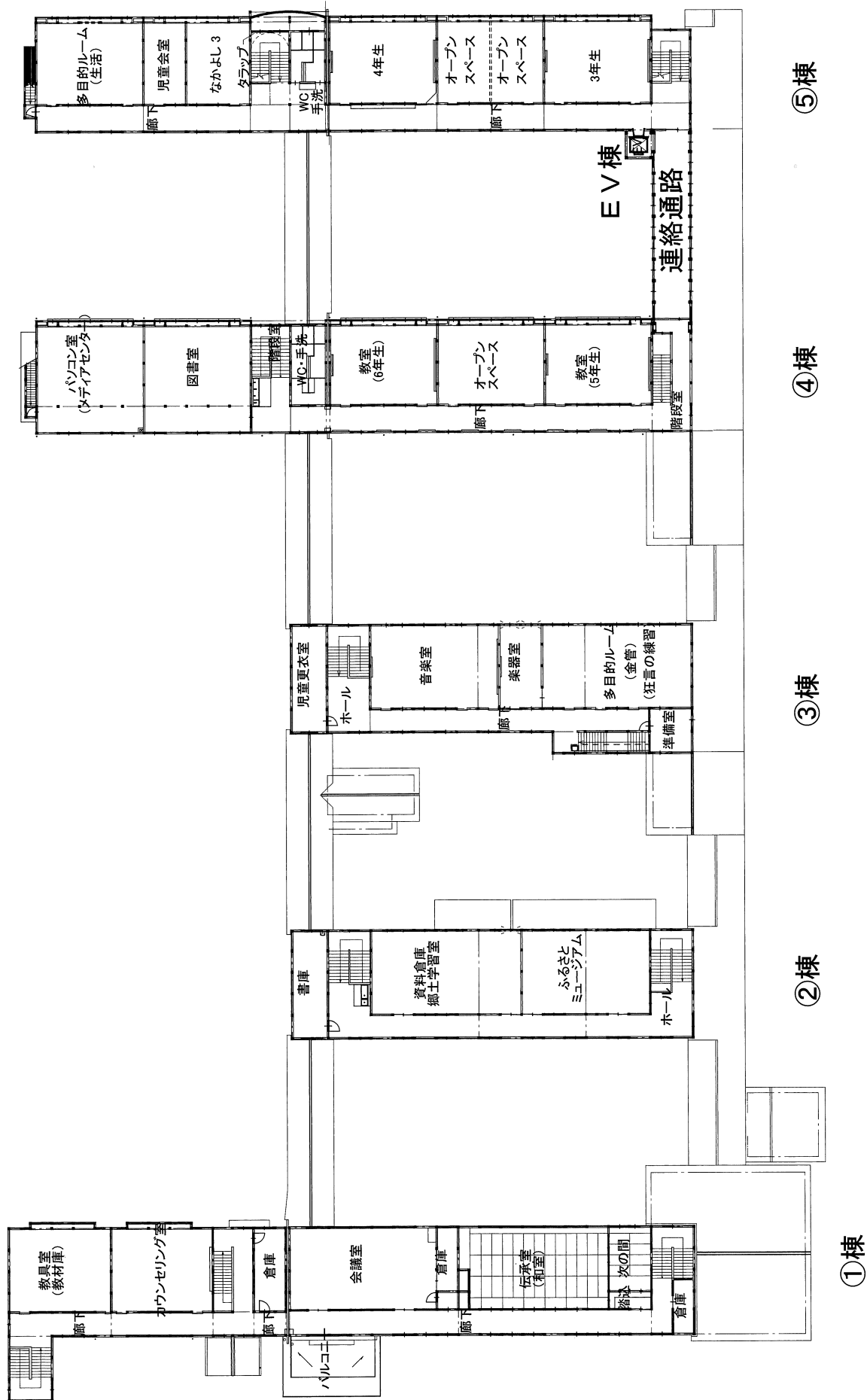
【校舎配置図】



【計画 1 階平面図】



【計画 2 階平面図】



## 2. 篠山小学校の歴史

### ●知新館

明治5年(1872)、政府は国の興隆は教育にありと考え、学制改革を実施していった。これにより篠山町も、明治6年誓願寺に学校を開設して「知新館」と名づけ、子弟の教育を始めたのだった。これが篠山小学校の始まりとなった。明治6年(1873)4月20日のことである。

多紀郡の中心、篠山で生まれたので「幹校」と呼ばれ、生徒が増加するにしたがい、東幹校と西幹校に分かれていった。誓願寺の西幹校には約200名の生徒が集まった。

明治7年、「幹校」の校名が変更され、篠山東学校、篠山西学校となった。明治8年には東西両校を合併して「小学校」と改称されていった。

篠山小学校は、このときに篠山城二の丸に場所を移し、大書院、玄関、広間を校舎とした。教育理念を表す「培根達枝」の石碑は城門入口に建てられたのであった。

### ●校舎の移転・・・三の丸へ

明治13年(1880)生徒数の増加とともに3校に分立していった。篠山小学校としてそのまま二の丸大書院に残り、河原町支校として西坂邸に一校建てられ、さらに始進小学校として二階町に増設されたのであった。

義務教育(4年制)が確定するとともに明治20年学制が一変して「篠山尋常小学校」と改称された。尋常小学科4年、高等小学科4年の修業年限となるなかで、始進小学校あとに「多紀高等小学校」が創設されていった。

明治43年(1910)教育内容の充実が進められるなかで新校舎の設立が望まれ、ついに三の丸に建設されることになった。校舎5棟と講堂が新築され、在籍児童も高等科をあわせて803名となった。

### ●篠山らしい学級・学校づくり

大正8年(1919)久代校長は篠山にふさわしい学級名をつくろうと、漢詩より抜粋して四字熟語を選び出し、クラス名を整えていった。

一学年3クラスか4クラスだったので、学年ごとに漢字一字をクラス名としたのである。「礼悌恭愛」「忠孝良順」「敬節信義」「勤儉推譲」「真善美聖」「公明正大」の6学年分であった。さらに「智仁勇武」が加えられたときもあった。

以後、代々の校長はこのクラス名を教育方針のなかに組み入れ、現在も受け継がれている。学年が一クラスになっても、順次四字の中から取り出され、全国唯一のクラス名となっている。本館二階の大広間には「古くともほくには 仁、義、礼、智、信」の扁額がかかっていた。

### ●大改築

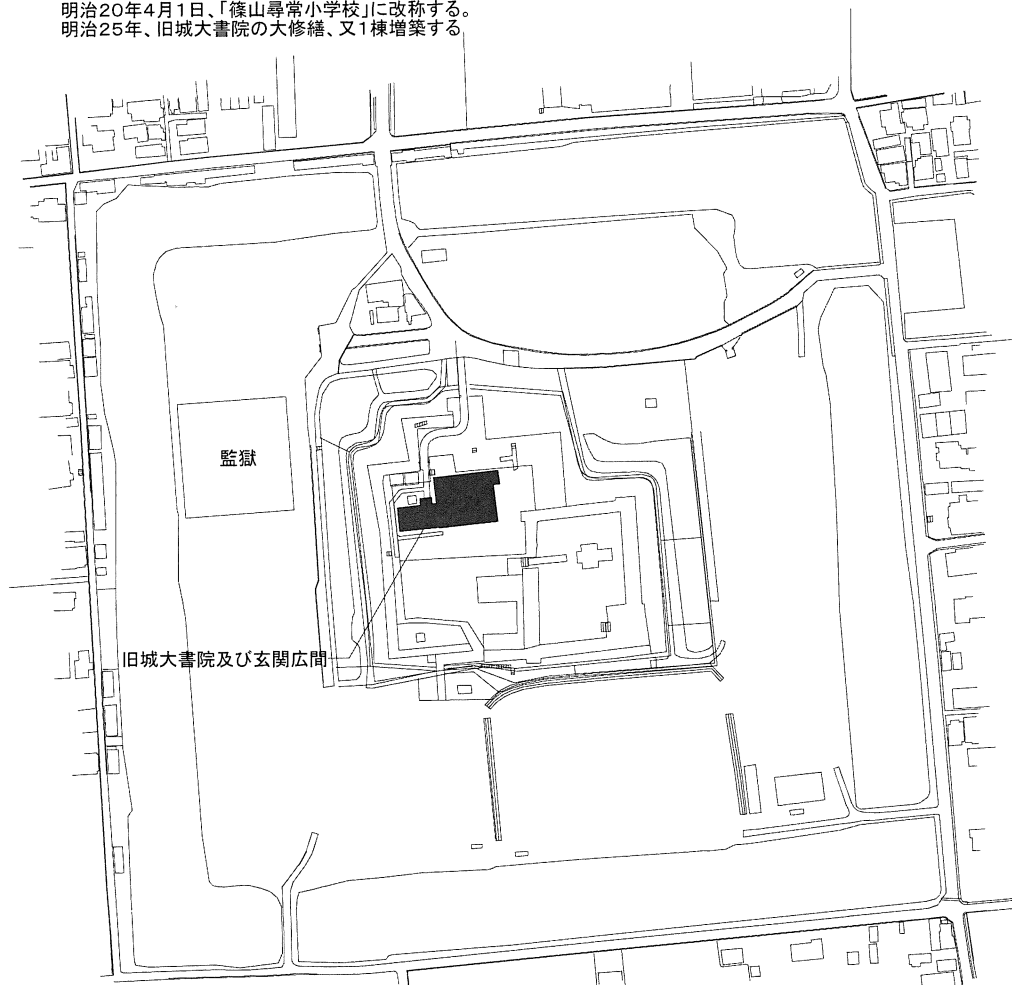
昭和3年(1928)京都の修徳小学校の校舎を買い受けて、本館・東館・西館を増築した。昭和10年鉄骨木造の新工法で建築され、新しいタイプの講堂が落成された。

昭和16年には篠山国民学校と改称され、初等科6年、高等科2年、特修科1年の構成となった。昭和19年には尼崎城内国民学校より集団疎開として320名を受け入れた。昭和25年東館一棟を焼失したが、翌年再建することができた。

昭和27年(1952)より4カ年計画により校舎総改築にふみきった。第1期工事として第5館竣工。28年4館完成。29年第2館、第3館が竣工し、昭和30年第4期工事として本館が完成した。

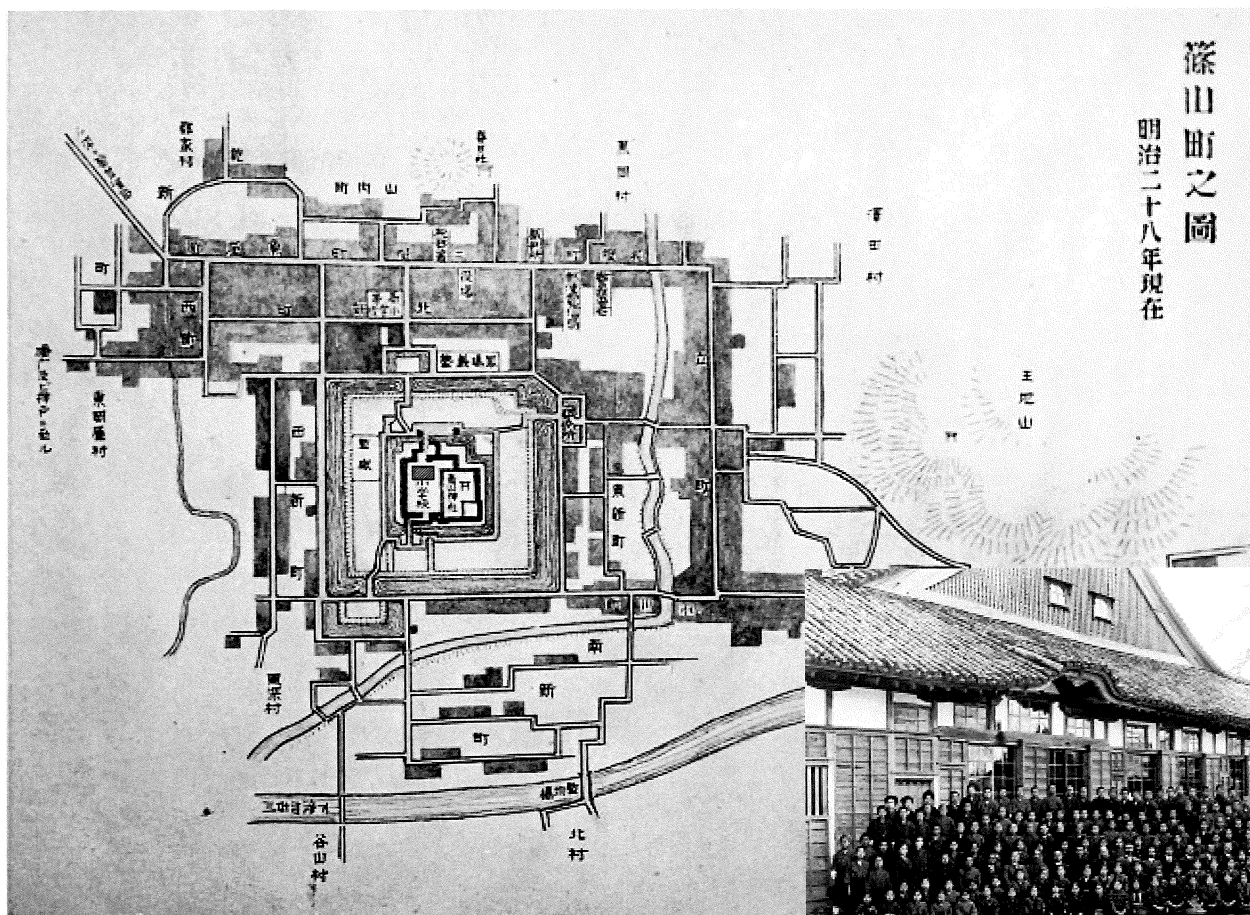
その後、数々の修復をするなかで、昭和49年(1974)敷地内に篠山養護学校を設立。児童の減少とあいまって、幼稚園の改修や修復を繰り返すとともに、ぬくもりのある木造校舎を守り続けてきた。平成6年篠山養護学校は、東新町に新校舎を設立し、城跡の外へ移転していった。現校舎は、東日本大震災後、耐震補強が必要になったが、5館もの木造校舎をもつ小学校は特異な存在となりつつある。

明治 8年1月、旧城大書院及び玄関広間を借用して「篠山小学校」と改称する。  
 明治19年4月、小学校令が公布。  
 明治20年4月1日、「篠山尋常小学校」に改称する。  
 明治25年、旧城大書院の大修繕、又1棟増築する。

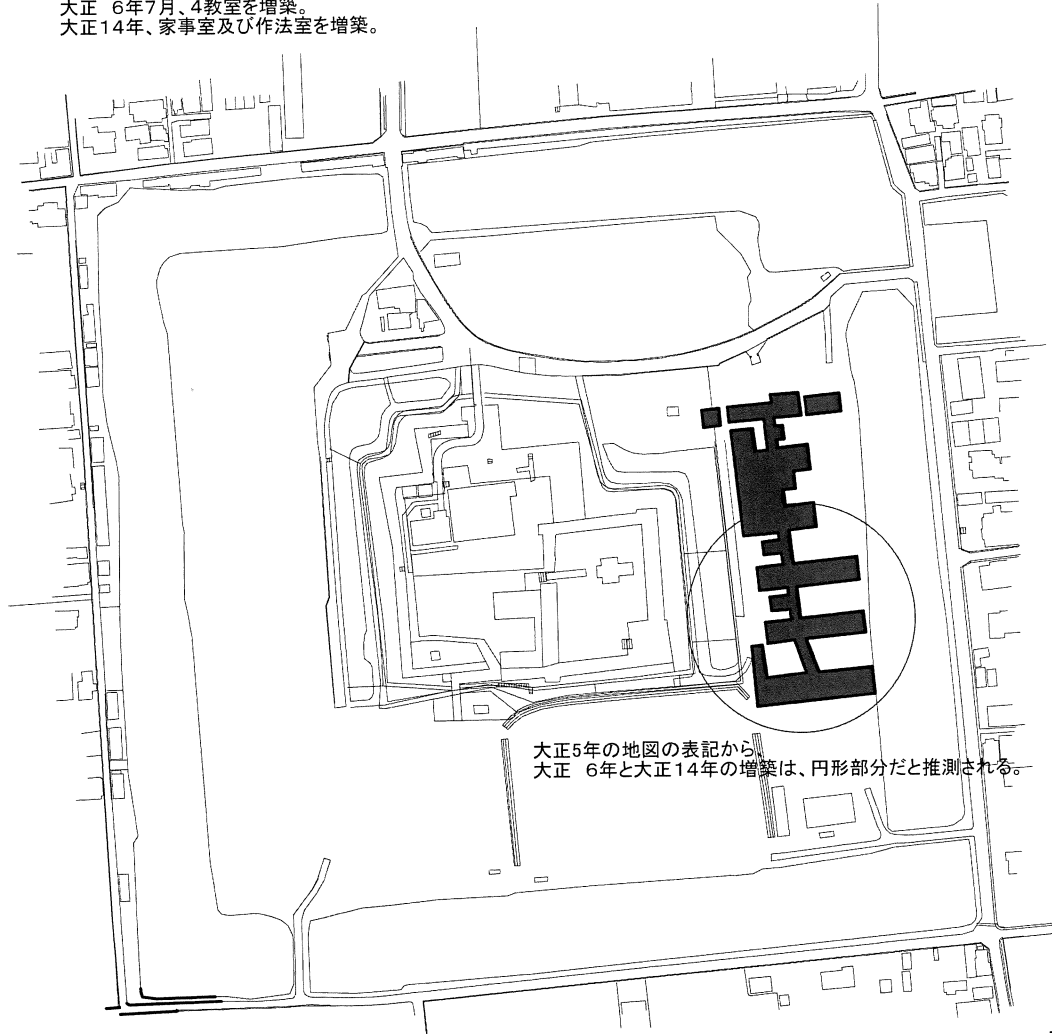


明治28年 下記絵図により作成

1:4000



明治43年5月1日、「篠山尋常小学校」新校舎へ移転。  
 明治45年4月、「篠山高等小学校」との併設に伴い、「篠山尋常高等小学校」と改称する。  
 大正 6年7月、4教室を増築。  
 大正14年、家事室及び作法室を増築。

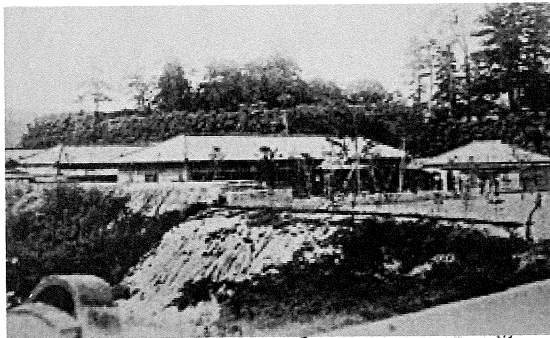


大正5年の地図の表記から  
 大正 6年と大正14年の増築は、円形部分だと推測される。

1:4000

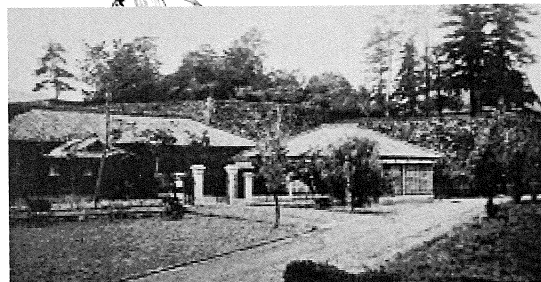
大正5年 下記絵図により作成  
 但し、校舎形状については、明治43年の写真・昭和8年のスケッチ・  
 現校舎前の校舎配置から推測して作成している。

明治43年 東馬出から

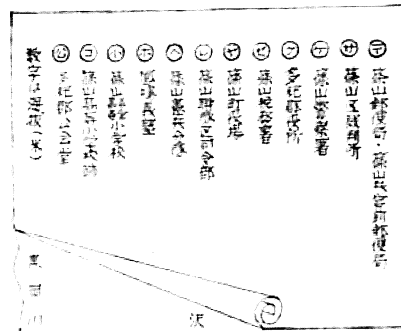


明治43年現敷地に校舎建設

明治43年 北東から



寄棟平屋建て



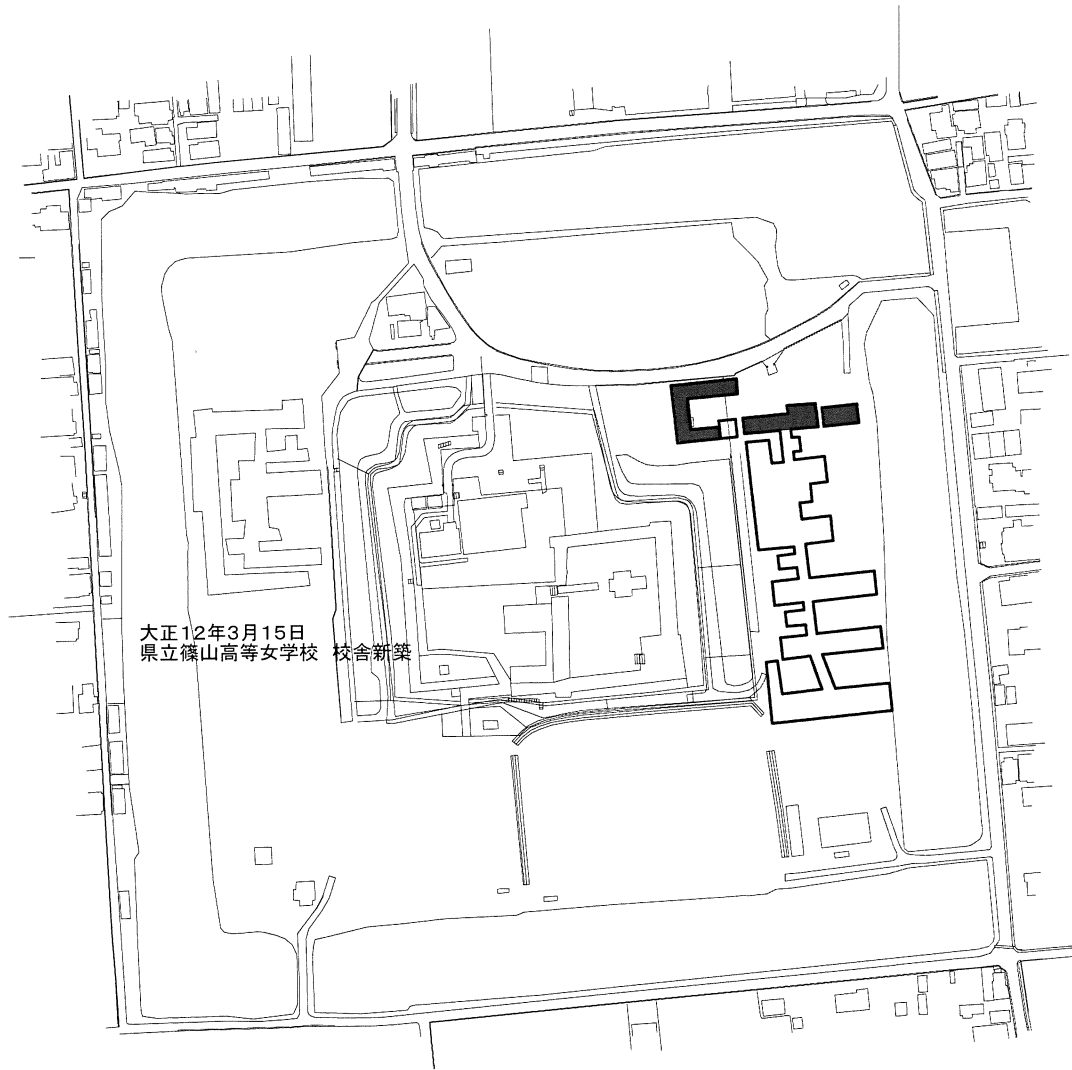
篠山町及附近之圖

大正五年現在



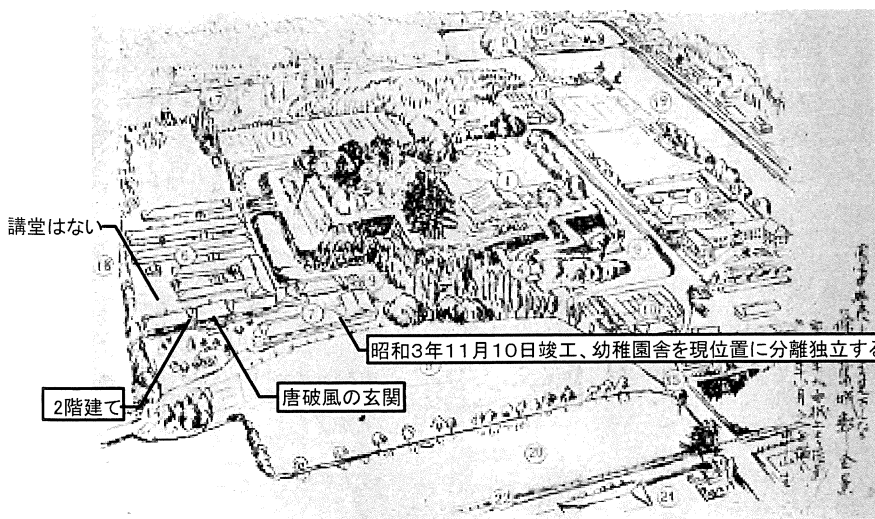
校庭

昭和3年11月10日竣工、本館改築及び修徳小学校(京都)校舎を買受け第6校舎移築する。  
幼稚園舎を現位置に分離独立する。



大正12年3月15日  
県立篠山高等女学校 校舎新築

昭和8年作成イラストにより作成



昭和8年作成イラスト(大正8年空撮のもの)

大正6年7月、4教室を増築する  
大正14年、家事室及び作法室増築  
昭和3年11月10日竣工  
本館改築及び修徳小学校(京都)校舎を買受け第6校舎移築



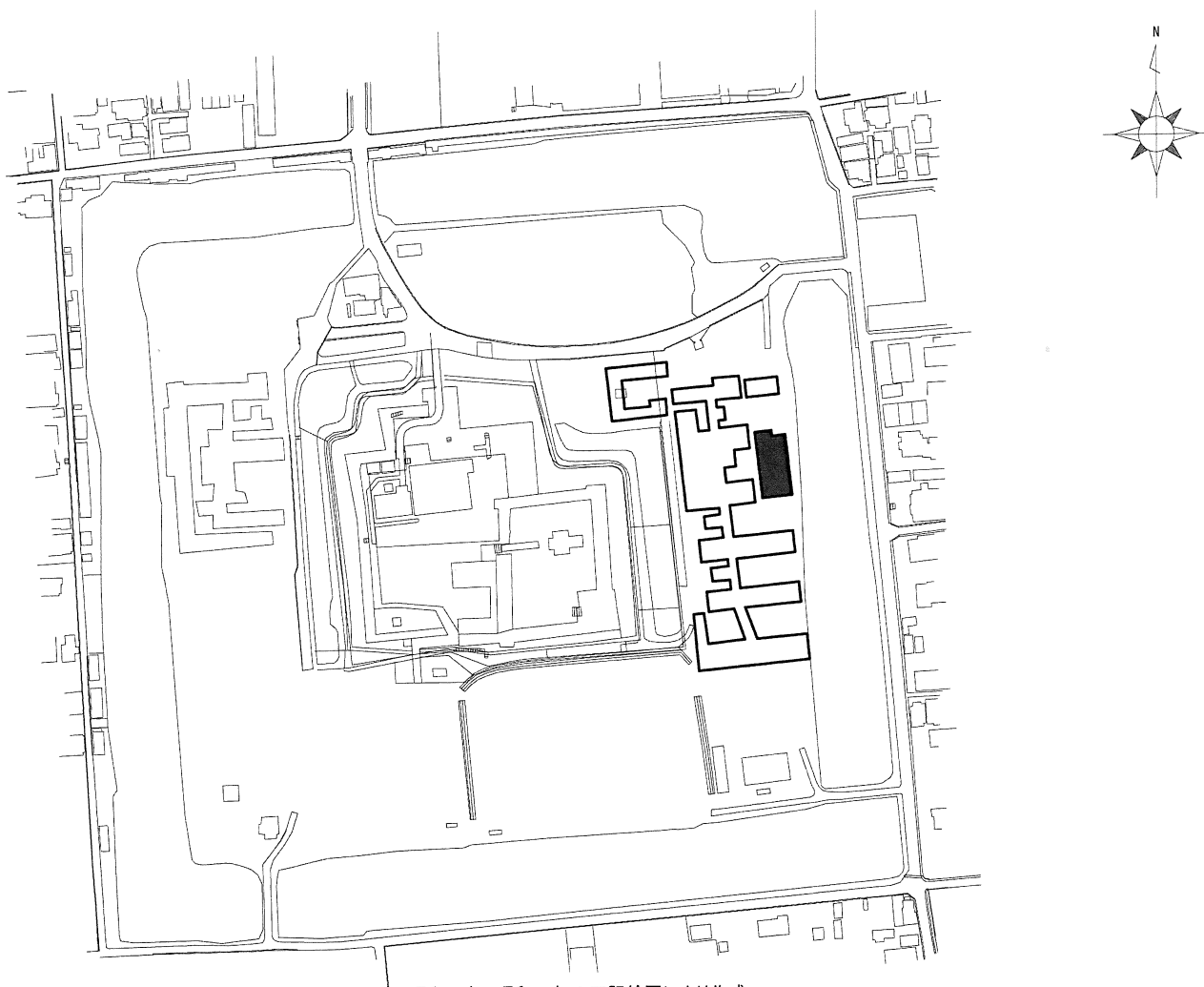
昭和3年 北面移築校舎



昭和4年 北面移築校舎

現存するもの門は、当時のものと思われる。  
門の頭頂部には、明治期にはなかった門燈が取り付けられている。

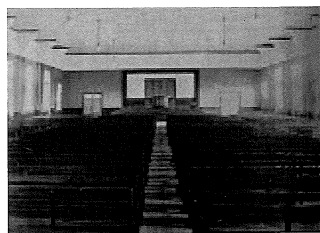
昭和10年5月7日、鉄骨木造近世式講堂を新築する。



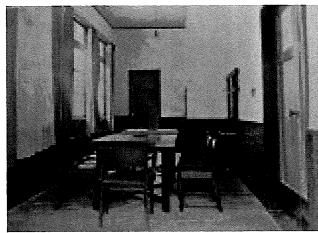
昭和11年、昭和12年の下記絵図により作成  
昭和12年の絵図には、講堂の書き込みがある



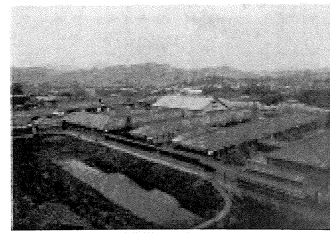
昭和10年 竣工時の講堂



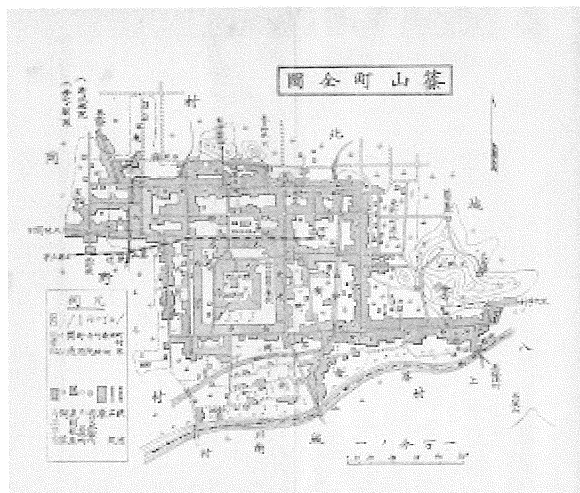
昭和10年 竣工時の講堂内部



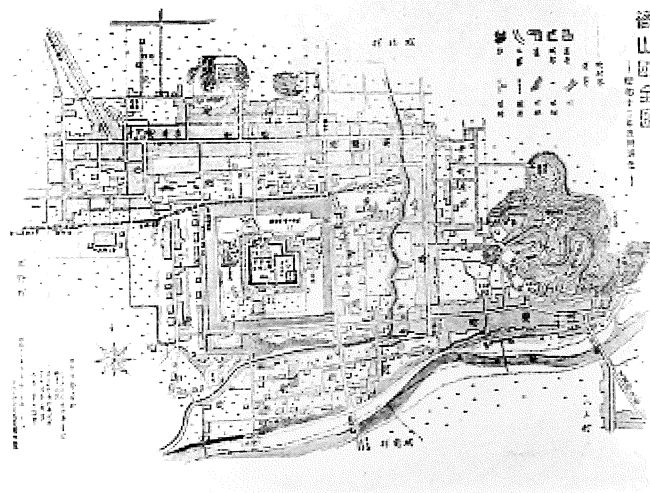
昭和10年 竣工時の講堂内部



昭和11年  
校舎全景 手前校舎平屋、北側2階建て。

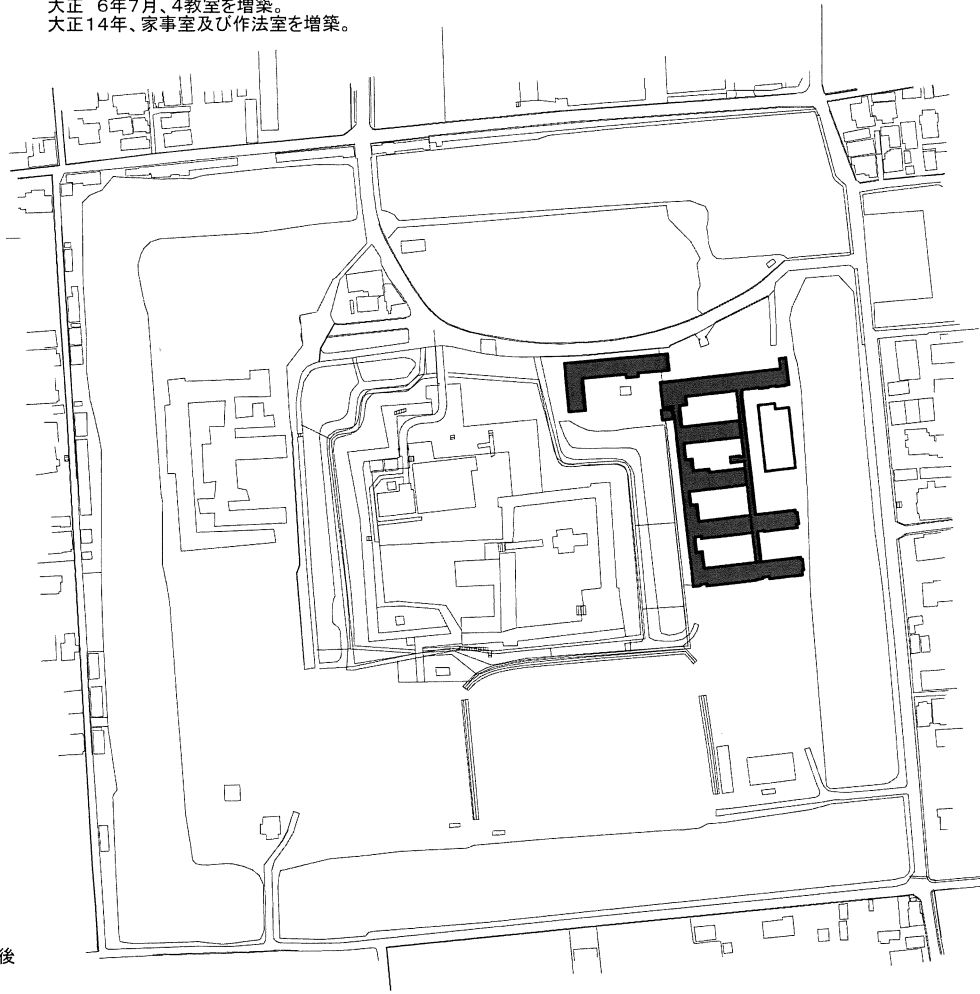
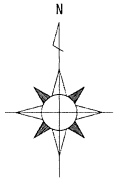


昭和11年



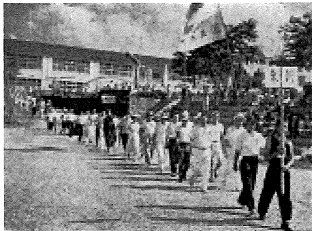
昭和12年

明治43年5月1日、「篠山尋常小学校」新校舎へ移転。  
 明治45年4月、「篠山高等小学校」との併設に伴い、「篠山尋常高等小学校」と改称する。  
 大正 6年7月、4教室を増築。  
 大正14年、家事室及び作法室を増築。

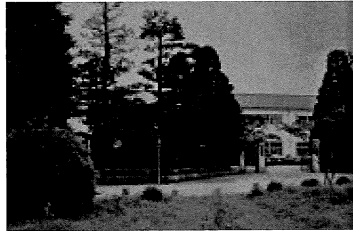


現校舎竣工直後

大正5年 下記絵図により作成  
 但し、校舎形状については、明治43年の写真・昭和8年のスケッチ・  
 現校舎前の校舎配置から推測して作成している。



昭和29年

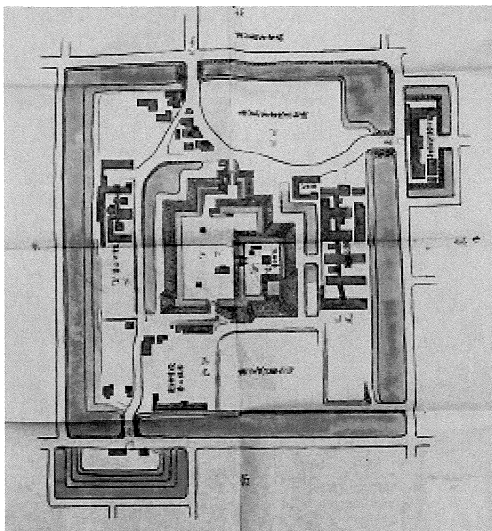


昭和30年

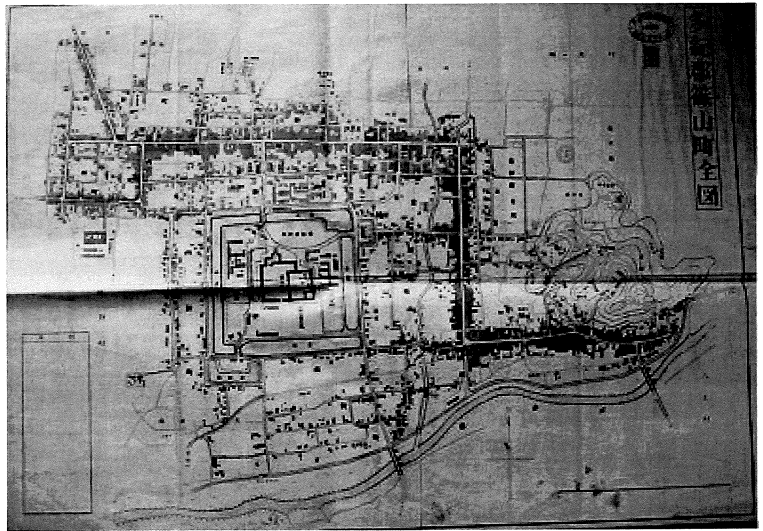


昭和30年

木部は、塗装を施している。



昭和28年



昭和30年

※現校舎に改築が始まり、一部完成しているが地図の訂正はなされていない。